

日本認知症官民協議会 認知症バリアフリーWG（第2回）

一足先に認知症になった私たちから
すべての人たちへ

一般社団法人
日本認知症本人ワーキンググループ
代表理事 藤田 和子

日本認知症本人ワーキンググループとは

日本認知症本人ワーキンググループ（JDWG）は、「認知症になってからも希望と尊厳を持って暮らすことのできる社会」を創り出すことを目的に活動を展開しています。（<http://www.jdwg.org/>）



私たち認知症のある本人と、本人の活動目的に賛同されたパートナーの皆さんが、認知症の本人の「本人だからこそその経験・体験からの声」を発信して、ともによりよく暮らすことのできる社会を創り出すことにチャレンジしています。



藤田和子／一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 代表理事

鳥取市在住、58歳。看護師として働いていた45歳の時、若年性アルツハイマー病と診断される。

「認知症になっても自分らしく暮らせる地域にしたい、そんな地域をつくりたい」と考え、12年前から地元で活動が続けてきた。

これからもその活動の輪を広げていくために、全国各地で「認知症とともに生きる希望宣言」を伝え、その地域の本人たちが前向きに生き、仲間をつくり、社会に参加していくことの後押しをしていきたい。

私たちが考える「認知症バリアフリー」

認知症になると、

「何もわからない」「問題を起こす人」「支援される一方」・・・

になるわけではありません。

(認知症によって現れる困難さ・不自由さは、人によって違います)

- よりよく生きていける可能性を持っている人もたくさんいます。
- 新しいことを覚えたり、行きたいところへでかけて、自分の人生を、自分なりに心豊かに過ごしていきたい。
- 認知症とともに暮らしているからこそ気づいたことや、工夫をしていることを、他の人や社会に、役立ててほしい。

これまでの 「認知症の人」への見方

本人には、判断力や意志は無い
本人は、一様に支えられる存在
認知症であることを隠しておきたい

- ①本人の意志・生き方・生活を軽視
- ②本人抜きで、決める・進める
- ③本人の持つ力を軽視・無視
- ④本人は、支えられる一方
- ⑤本人が地域に出ない／出さない（孤立）
- ⑥状態が悪くなってからの対処（問題対処）
- ⑦一部の人・サービスによるバラバラな支援

この認識の転換こそが「バリアフリー」

これからの社会に望む 「認知症の人」への見方

本人には、自分なりの思いや希望がある
本人は、多様な人生経験、力（ちから）がある
本人だからこそ、発信できることがある

- ①本人の意志・生き方・生活を重視
- ②何事も、本人と決める、一緒に進む
- ③本人の持つ力を重視・可能性を活かす
- ④本人も、社会で活躍し、役立つ存在
- ⑤本人が、地域の中でとともに暮らす（共生）
- ⑥初期（診断前後）からより良く生きる
- ⑦多様な人々・社会資源とともに生きる

接遇・契約の方針づくりや対応、サービスや製品開発の「起点」としてほしい、
認知症の人とともに進めてほしい

本人の声を活かして

認知症とともに生きる希望宣言

日本認知症本人ワーキンググループ (JDWG) は、2018年11月1日、「認知症とともに生きる希望宣言」を表明しました。

「認知症とともに生きる希望宣言」は、私たち認知症とともに暮らす本人一人ひとりが、体験と思いを言葉にし、それらを寄せ合い、重ね合わせる中で、生まれたものです。

今とこれからを生きていくために、一人でも多くの人に一緒に宣言をしてほしいと思っています。

この希望宣言が、さざなみのように広がり、希望の日々に向けた大きなうねりになっていくことを、こころから願っています。



認知症とともに生きる希望宣言

1. 自分自身がとらわれている常識の殻を破り、前を向いて生きていきます。
2. 自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。
3. 私たち本人同士が、出会い、つながり、生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。
4. 自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、身近なまちで見つけ、一緒に歩いていきます。
5. 認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、暮らしやすいわがまちを、一緒につくっていきます。

「希望のリレー」活動

私たちは今、「希望宣言」を全国各地に届ける「希望のリレー」を様々な人と、一緒に進めています。

自分も希望を持って暮らしていこうという人が一人でも多く増え、一緒によりよい社会を創っていこうという人の輪が広がっていくために、私たちも力を尽くしていきます。



● 本人が本人へ伝える
診断後に不安でいっぱい
の人の相談役となり、
希望を伝える。



● 本人が、身近な友達
や地域の人たちへ



● 地域の人同士が、
地域の住民や様々な
立場の人へ



● 映画上映会で
リーフレット配布
本人が希望宣言に
見入る。



● 本人同士で語りあう
希望宣言をもとに、で
きることを、やりたいこと
を話し合い、チャレンジ



● 本人が、行政・専門
職とともに市民へ
全国各地の講演やシン
ポジウム、研修会、報告
会等の機会を通じて



● 行政や医療・介護 専
門職が本人へ、家族
や市民へ配布、掲示、
手渡す。



● 市条例づくり
「希望宣言」を活かし、
本人 が参画して条例
をつくる。

一般社団法人 日本認知症本人ワーキンググループ 認知症とともに生きる希望宣言

1

自分自身がとらわれている常識の殻を破り、
前を向いて生きていきます。

2

自分の力を活かして、大切にしたい暮らしを続け、
社会の一員として、楽しみながらチャレンジしていきます。

3

私たち本人同士が、出会い、つながり、
生きる力をわき立たせ、元気に暮らしていきます。

4

自分の思いや希望を伝えながら、味方になってくれる人たちを、
身近なまちで見つけ、一緒に歩んでいきます。

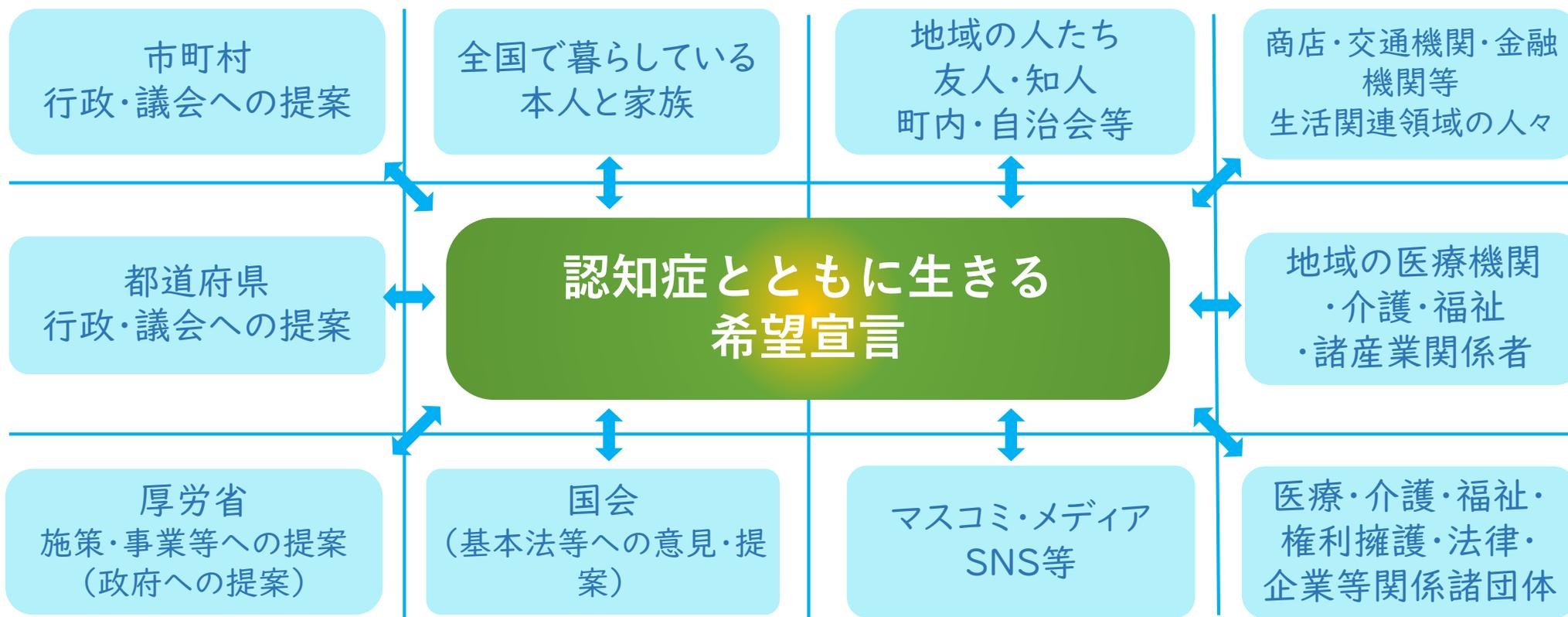
5

認知症とともに生きている体験や工夫を活かし、
暮らしやすいわがまちを一緒につくっていきます。

日本認知症本人ワーキンググループが進めている

「希望のリレー」活動

全国各地で、様々な方法で、様々なカタチで、
様々な領域へ、「希望のリレー」が始まっています。
みなさんも、一緒に。



日本認知症本人ワーキンググループの活動については、ホームページをご参照ください。

<http://www.jdwg.org/>